

スクリプト概要

本アプリケーションは複数のスクリプトを使用し、処理を行っております。

スクリプト名	種類	説明
Voice_To_Text_OpenAI_convert	メイン	LLM（OpenAI）を用いて、指定した音声ファイルからテキストを抽出
Voice_To_Text_OpenAI_subtitle	サブ	Whisperの場合、指定した音声ファイルから時間とテキストを抽出し、ファイルに保存
Voice_To_Text_OpenAI_text	サブ	GPTの場合、指定した音声ファイルからテキストを抽出し、ファイルに保存

コネクション設定

コネクタータイプ	REST接続
URL設定	https://api.openai.com/v1

可変長書き込み設定

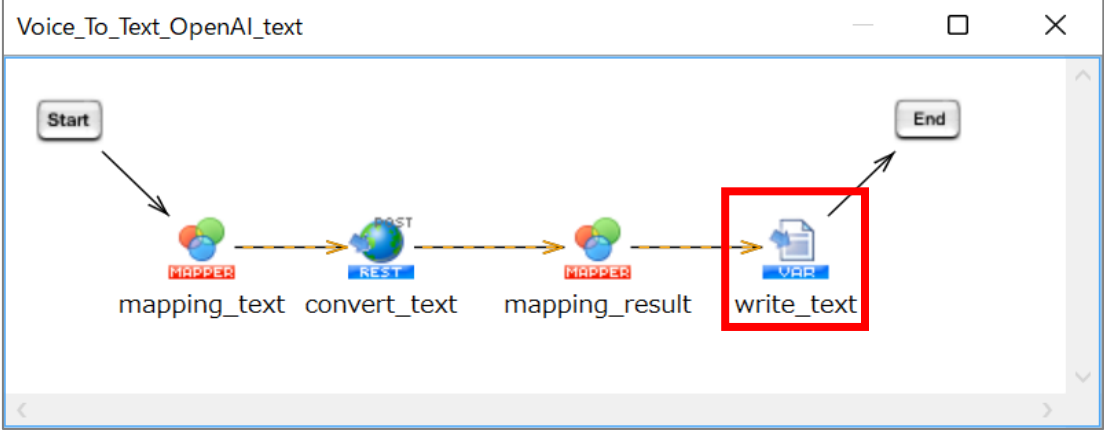
OpenAIのレスポンスをファイルに書き出す際に、「可変長書き込みフォーマット定義」を利用します。
後述の設定手順にて「可変長書き込みフォーマット定義」を作成のうえ、可変長書き込み処理コンポーネントのプロパティ設定ダイアログにて、フォーマットの設定を行ってください。

<可変長書き込み 設定手順>

1. HULFT Squareサイト > データ形式 から「新規追加」を選択し、「可変長書き込みフォーマット定義」を作成してください。
※ 「名前」「ワークスペース」には任意の値を設定してください



2. デザイナーで「Voice_To_Text_OpenAI_text」スクリプトを開き、「write_text」コンポーネントを開いてください。



3. プロパティ設定ダイアログにて、「フォーマット」に手順1.で作成した可変長書き込みフォーマット定義を選択し、「可変長書き込みウィザードの起動...」を押してください。

HS 可変長ファイル書き込み処理のプロパティ

可変長ファイル書き込み処理

可変長ファイル書き込み処理のプロパティを設定します。

名前

write_text

入力データ

mapping_result

必須設定

書き込み設定

トランザクション

コメント

ファイル

`\${L\_outputFilename}.txt`

参照...

プレビュー...

デリミタモード

☒ 一覧から選択

☐ 直接入力

☐ 文字こ

デリミタ文字リスト

半角スペース

ダブルクォートエスケープ

☒ 無効

☐ 有効

フォーマット

手順1: で作成したフォーマット定義:

可変長書き込みウィザードの起動...

完了

取消し

4. 可変長ウィザードにて、「列一覧」「構造定義」を以下の通りに設定してください。

HS 可変長ウィザード

列一覧

構造定義

列

Field

構造定義

Group

Record

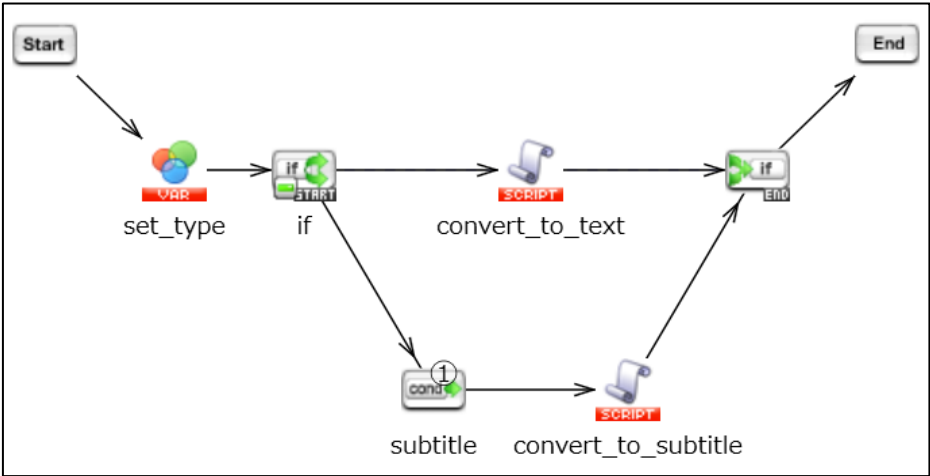
Field

可変長書き込み設定は以上です。

スクリプト名

Voice_To_Text_OpenAI_convert

LLM（OpenAI）を用いて、指定した音声ファイルからテキストを抽出します。



初期設定項目(スクリプト変数)

項目名	必須/省略可	説明
I_APIKey	必須	事前に取得したAPIキー
I_modelName	省略可	利用するAIモデル名（初期値：whisper-1 指定可能値：whisper-1、gpt-4o-transcribe、gpt-4o-mini-transcribe）
I_inputFile	必須	変換したい音声ファイルのフルパス

備考

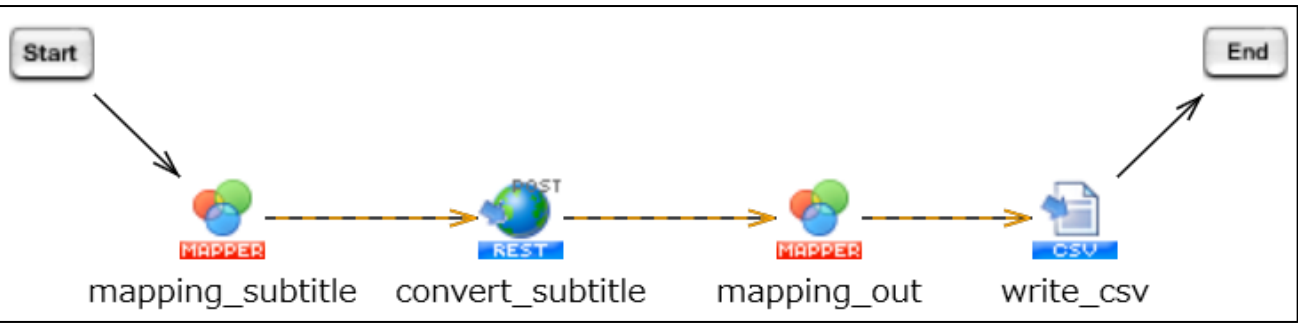
スクリプトコピー後、実行前にスクリプト呼び出しコンポーネントを開き[完了]ボタンを押下

スクリプト名

Voice_To_Text_OpenAI_subtitle

Whisperの場合、指定した音声ファイルから時間とテキストを抽出し、ファイルに保存します。

※モデル「whisper-1」を使う場合、時間とテキストが抽出可能



初期設定項目(スクリプト変数)

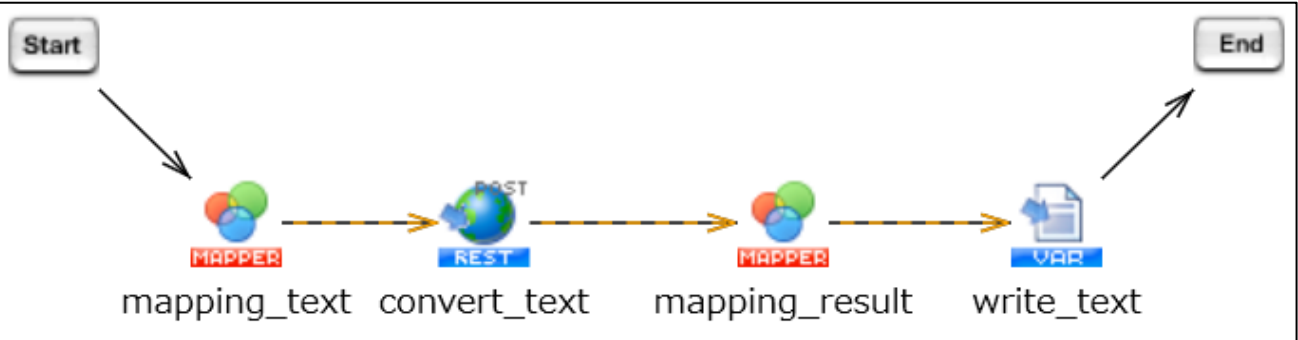
項目名	必須/省略可	説明
なし	-	-

スクリプト名

Voice_To_Text_OpenAI_text

GPTの場合、指定した音声ファイルからテキストを抽出し、ファイルに保存します。

※モデル「gpt-4o-transcribe」または「gpt-4o-mini-transcribe」を使う場合、テキストのみが抽出可能



初期設定項目(スクリプト変数)

項目名	必須/省略可	
なし	-	-